

# 「3桁の数の引き算」くり下がりのやり方と筆算の書き方を解説

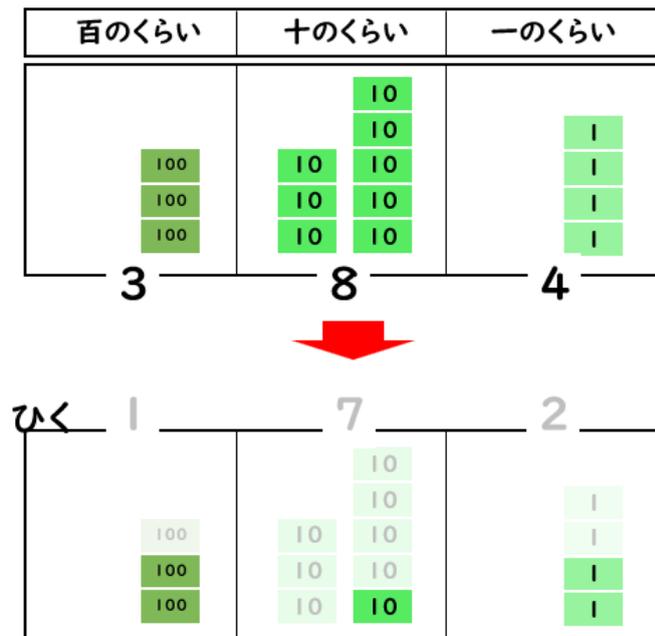
## 3けたの数のひき算（くり下がりのない筆算）のやり方

384 - 172 の計算の仕方を考えてみよう

大きな数の計算をするときは、「筆算」をすると分かりやすかったね。  
筆算の書き方や計算のしかたは、2けたのひき算のときと同じだよ。

計算するときは、一のくらいから計算するんだったよね。

- (一のくらい)  $4 - 2 = 2$
- (十のくらい)  $8 - 7 = 1$
- (百のくらい)  $3 - 1 = 2$



筆算では次のようにするよ。

3	8	4		3	8	4		3	8	4
-	1	7	2	→	-	1	7	2	→	-
								2		2

ゆみねこの教科書  
 くらいをたてに  
 そろえて書く

$$4 - 2 = 2$$

$$8 - 7 = 1$$

$$3 - 1 = 2$$

### 3けたの数のひき算（くり下がりが1回）のやり方

354 - 172の計算の仕方を考えてみよう

計算するときは、一のくらいから計算するんだったよね。

（一のくらい）

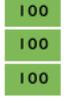
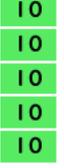
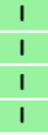
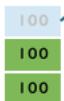
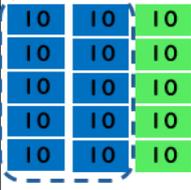
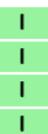
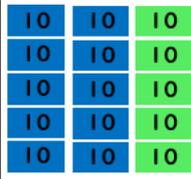
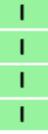
4 - 2 = 2だから、一のくらいは2だよ。

（十のくらい）

5から7はひけないから、十のくらいのひき算はできないよね。  
 そんなときは、百のくらいから「100のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

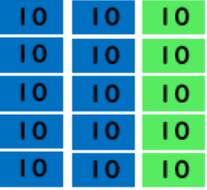
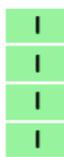
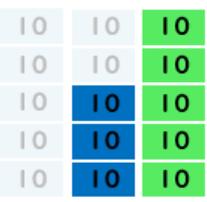
百のくらいから1つ分だけもらってくると、十のくらいはもとの「5」と、もらってきた「10」で、「15」になるね。



百のくらい	十のくらい	一のくらい
		
		
		

すると、十のくらいの計算は、「 $15 - 7$ 」というひき算になるよ。  
 これなら、計算できそうだね。

十のくらいの計算は  $15 - 7 = 8$  だから、十のくらいは  $8$  だよ。

百のくらい	十のくらい	一のくらい
		
		
		





### 3けたの数のひき算（くり下がりが2回）のやり方

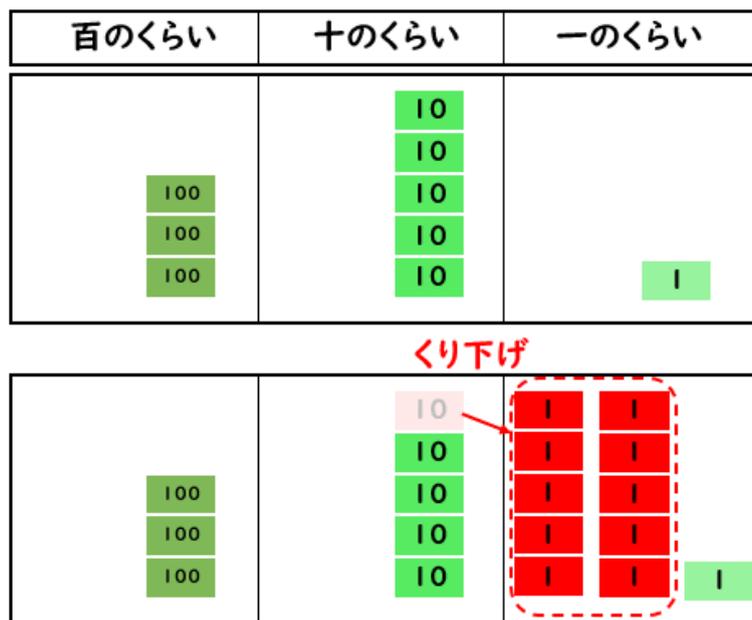
351 - 172 の計算の仕方を考えてみよう

計算するときは、一のくらいから計算するんだったよね。

（一のくらい）

1から2はひけないから、一のくらいのひき算はできないよね。そんなときは、十のくらいから「10のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

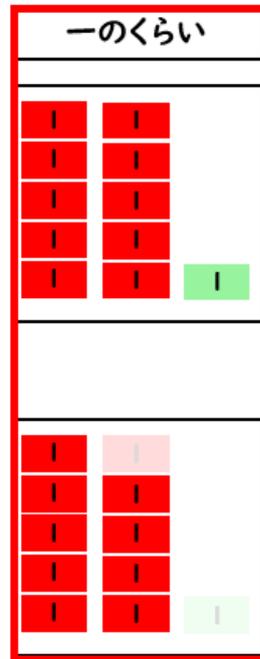
十のくらいから1つ分だけもらってくると、一のくらいはもとの「1」と、もらってきた「10」で、「11」になるね。



すると、一のくらいの計算は、「11 - 2」というひき算になるよ。これなら、計算できそうだね。



一のくらの計算は  $11 - 2 = 9$  だから、一のくらは  $9$  だよ。



(十のくらい)

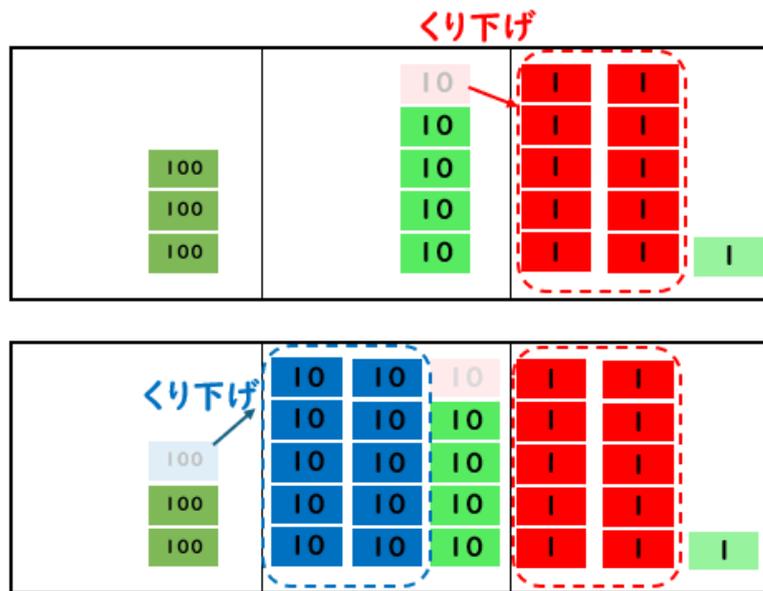
くり下がりをしたから、十のくらは「10のかたまり」を一のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、5つあった「10のかたまり」は4つになっているから気をつけようね。

4から7はひけないから、十のくらのひき算はできないよね。そんなときは、百のくらいから「100のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

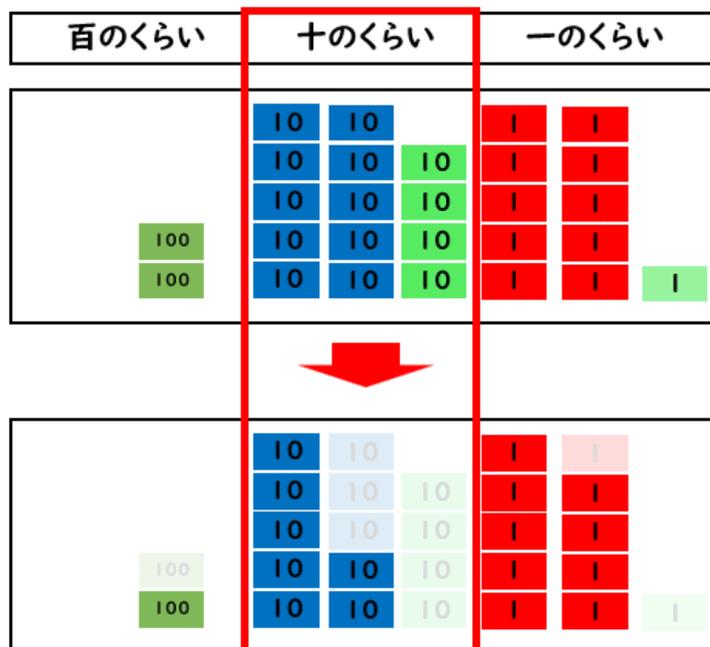
百のくらいからひとつ分だけもらってくると、十のくらはもとの「4」と、もらってきた「10」で、「14」になるね。





すると、十のくらの計算は、「 $14 - 7$ 」というひき算になったよ。  
これなら、計算できそうだね。

十のくらの計算は  $14 - 7 = 7$  だから、十のくらは  $7$  だよ。

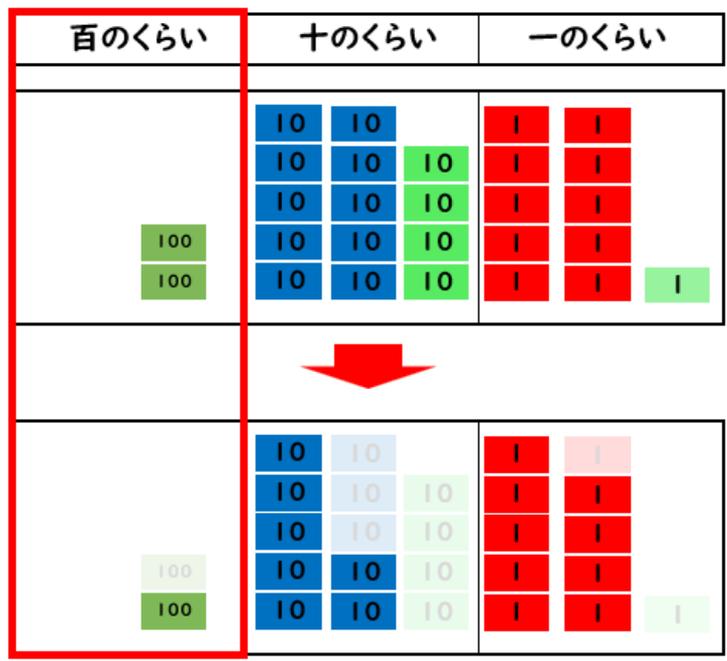


(百のくらい)

くり下がりをしたから、百のくらいは、「100のかたまり」を十のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、3つあった「100のかたまり」は2つになっているから気をつけようね。

百のくらいの計算は  $2 - 1 = 1$  だから、百のくらいは1だよ。



筆算で書くと次のようになるよ。



### 3けたの数のひき算の練習問題

976 - 254の計算をやってみよう。

計算するときは、一のくらいから計算するんだよね。

(一のくらい)  $6 - 4 = 2$

(十のくらい)  $7 - 5 = 2$

(百のくらい)  $9 - 2 = 7$

	一のくらい		十のくらい		百のくらい
9	7	6	9	7	6
-	2	5	-	2	5
		4		4	4
		2		7	2
				2	2

くらいをたてに

$6 - 4 = 2$

$7 - 5 = 2$

$9 - 2 = 7$

そろえて書く

535 - 293の計算をやってみよう。

(一のくらい)

$5 - 3 = 2$ だから、一のくらいの数は2だね。

(十のくらい)

3から9はひけないから、十のくらいのひき算はできないよね。そんなときは、百のくらいから「100のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

百のくらいからひとつ分だけもらってくると、十のくらいはもとの「3」と、もらってきた「10」で、「13」になるね。



すると、十のくらの計算は  $13 - 9 = 4$  だから、十のくらは4だよ。

(百のくらい)

くり下がりをしたから、百のくらは、「100のかたまり」を十のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、5つあった「100のかたまり」は4つになっているから気をつけようね。

百のくらの計算は  $4 - 2 = 2$  だから、百のくらは2だよ。

	<b>一のくらい</b>	<b>十のくらい</b>	<b>百のくらい</b>
$\begin{array}{r} 535 \\ - 293 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 535 \\ - 293 \\ \hline 2 \end{array}$	$\begin{array}{r} 45\overset{1}{3}5 \\ - 293 \\ \hline 42 \end{array}$	$\begin{array}{r} 45\overset{1}{3}5 \\ - 293 \\ \hline 242 \end{array}$
くらいをたてに そろえて書く	$5 - 3 = 2$	百のくらいから 1くり下げる $13 - 9 = 4$	$4 - 2 = 2$

**3-9は計算できない**

431 - 133の計算をやってみよう。

(一のくらい)

1から3はひけないから、一のくらのひき算はできないよね。そんなときは、十のくらいから「10のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

十のくらいから1つ分だけもらってくると、一のくらはもとの「1」と、もらってきた「10」で、「11」になるね。

すると、一のくらの計算は  $11 - 3 = 8$  だから、一のくらは8だよ。



(十のくらい)

くり下がりをしたから、十のくらいは、「10のかたまり」を一のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、3つあった「10のかたまり」は2つになっているから気をつけようね。

2から3はひけないから、十のくらいのひき算はできないよね。そんなときは、百のくらいから「100のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

百のくらいからひとつ分だけもらってくると、十のくらいはもとの「2」と、もらってきた「10」で、「12」になるね。

すると、十のくらいの計算は  $12 - 3 = 9$  だから、十のくらいは9だよ。

(百のくらい)

くり下がりをしたから、百のくらいは、「100のかたまり」を十のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、4つあった「100のかたまり」は3つになっているから気をつけようね。

百のくらいの計算は  $3 - 1 = 2$  だから、百のくらいは2だよ。

	$\begin{array}{r} 431 \\ - 133 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 4\cancel{2}31 \\ - 133 \\ \hline 8 \end{array}$	$\begin{array}{r} 34\cancel{2}31 \\ - 133 \\ \hline 98 \end{array}$	$\begin{array}{r} 34\cancel{2}31 \\ - 133 \\ \hline 298 \end{array}$
		一のくらい	十のくらい	百のくらい
		1-3は計算できない	2-3は計算できない	
くらいをたてに	十のくらいから	百のくらいから	3-1=2	
そろえて書く	1くり下げる	1くり下げる		
	11-3=8	12-3=9		



## 「1000円を出したとき」のおつりをもとめてみよう

3けたのひき算のやり方と、筆算の書き方は かくにんできたかな？

ここで、「1000円を出したとき」のおつりがいくらになるか？の計算にチャレンジしてみよう。

「1000円」は4けただけれど、これまでで学習してきたやり方をつかえば、だいじょうぶ。

342円のおもちゃを買って、1000円さつを出しました。  
おつりは何円ですか。

「おつり」というのは、「もどってくるお金」のことだから、1000円から342円をひけばいいよね。

つまり、式で考えると

$1000 - 342$ を計算すればいいね。

$1000 - 342$ の筆算

4けたのひき算だけれど、これまでとおなじように一のくらいから計算していけば だいじょうぶだよ。

ただ、「1000」は、一のくらい、十のくらい、百のくらいがすべて「0」なのでちゅういがひつようだね。

0から2はひけないから、十のくらいから1くり下げて・・・といきたいところだけど、十のくらいも、百のくらいも「0」だからくり下げられないね。

なので、千のくらいに注目しよう。



千のくらいから次のようくり下げをするんだ。

		9	9	
	<del>1</del>	<del>0</del>	<del>0</del>	0
-		3	4	2

どうなっているのかというと、千のくらいから一のくらいに「10」をくり下げています。

だから、一のくらいは「10」になるよ。

1000から10をもって行ってしまったので、のこりは「990」。

だから、百のくらいは「9」、十のくらいも「9」になっているよ。

ここまでできれば、あとはいままでどおりだね。

(一のくらい)  $10 - 2 = 8$

(十のくらい)  $9 - 4 = 5$

(百のくらい)  $9 - 3 = 6$

		9	9	
	<del>1</del>	<del>0</del>	<del>0</del>	0
-		3	4	2
		6	5	8



## 「3けたの数のひき算のやり方と筆算の書き方」まとめ

今回は、「3けた－3けた」のひき算や「1000円を出したときのおつり」を筆算でもとめたよね。

もし、「4けた－4けた」「5けた－5けた」になったとしても、くり下がりの回数がふえるだけでポイントは同じだよ。

さい後にポイントをかくにんしておこう。

### 3けたの数のひき算のまとめ

- くらいをそろえて、一のくらいからじゅんばんにひき算する。
- くり下がりがあると、くり下げたくらいの数は1小さくなる

